

幼 児 と 表 現 (音楽)

—— パフォーマンス教育 その 3 ——

中 村 ウ メ

はじめに

子どものより自主的活動を尊重する幼稚園教育に於て子どものパフォーマンスはさまざまな視点から享受されるとき子どもを大きく成長させるのである。ここに盛岡大学附属愛育幼稚園の園児をモデルに平成3年継続的に調査できたことをとおしてパフォーマンスのもつ要素と音楽教育の基礎能力育成について考えようとするものである。

戦後の教育における諸問題が問われている今日、教育の見直しは幼稚園の教育から義務教育は勿論のこと社会教育や生涯教育に至る全般にわたって実践されようとしている。その内容は個性を尊重する豊かな人間形成が教育の目標として示され、それぞれの責任ある生活を営なむ中にお互いを認め合う人と人とのより一層豊かなふれあいを目標とした心の教育を必要としているのである。

その配慮は当幼稚園でも実践されているが子どもたちの様子から着実にその変化を知ることができるのである。例えば教員室を訪れる子どもの口調の変化がある。『○○していいですか。』から『○○をください。』に変化し、今頃では『○○をみてください。』『○○を写真にとってください。』にその違いを表わしているのであるが、子どもの遊びの内容がより自主的で充実してきていると思われるのである。遊ぶ教室の使い方にも変化を見ることができる。当幼稚園はホールを中心にして各教室をそのまわりに設けているが、かつて自分の教室に滞っていた遊びが今では教室に滞まらず子どもたちは今日の遊びを決めて好きな場所を選び舞台を工夫して遊びを展開しているのである。子どもの友だ

ち関係にも年齢的こだわりがなく開かれた教室における開かれた教育(遊び)が展開されているのである。教師の子どもに対する配慮にも変化がみられる。物的あるいは人的環境を優先していた頃から子どもの行動をチェックし、コミュニケーションの内容を優先する方向へと変わっているのである。なぜならパフォーマンスはコミュニケーションを豊かにし 豊かなコミュニケーションほど様々なパフォーマンスにその成果を見出すことを重視するようになってきたからである。パフォーマンスの豊かな子どもの遊びは、教師に生き生きとしたエネルギーを感じさせ、また新しい発見に気付かせてくれるのである。また共感できたときはより一層の感動を得ることができ、その反面困惑をもなう。なぜなら子どものより豊かなコミュニケーションは豊かなほど教師には次の行動に対するプランニングにてこずるからである。教師に必要なことは巾広い豊かな教養とパフォーマンスに応じることのできるエネルギーである。いつでも応じることのできるゆとりある豊かな教師ほど子どもと一緒に多くの感動を得ることができ子どもから必要な人として迎えらるのである。

音楽教育に於ても音楽の魅力に感動できる心をもった教師ほど子どもの心を湧きたたせより一層の感動を子どもと共有できるのである。また幼稚園を修了した子どもの母親から学校で記憶した音楽を家に帰って楽譜なしに再現できるという類のことを聞く度にパフォーマンスによる音楽の基礎教育は音に対する感動をとりもつコミュニケーションによって育くまれるのではないかと考えられるのである。自分の音あるいはうけ持つ旋律を他者と比較しながら、あるいは聴

きながら学習できた子どもほど音に敏感になると思われるからである。

I. とおまわりなパフォーマンス教育

より初歩的で未熟な子どものパフォーマンスにも生き生きとした活動的エネルギーを感じることができる。なぜなら子どもの全身によるパフォーマンスは多種多様なひらめきによって起こり容易に変化してひたすら夢中にさせる生気に漲っているからである。パフォーマンスを共有しようとする教師は子どもの心をとらえ認め合う努力をしなければならない。子どもの内なる表現は子ども同士という仲間関係の認め合いによって躍動し身近に信頼関係をもつ教師から認められることによってより一層成長をみるからである。よってパフォーマンス教育に関わる教師の能力は子どもの動きやことばをチャンスをとらえてチェックする良い目と耳をそなえていることと、より瞬間的に考え様々に変化する子どものプランニングをより忠実にとらえコントロールしてはそのプランニングを立て直し即応するセンスの良さが問われるのである。幾度となく立て直し実行するパフォーマンスの教育はこれまでの指導計画立案とは違い子ども自身の躍動していることを中心とするがゆえにいつの間にか目標とする内容に近づいていたり、全く違う方向に展開し時間をかけて目標に近づくなどどちらかというと後者にふさわしく、とおまわりな指導方法となるのである。心の通じ合ったパフォーマンスは自信と勇気をもって確かな能力をとめない各個人にダイレクトされるのである。以下実践記録をとおして得たパフォーマンスの性格をもとにして1 ことばの段階としてのパフォーマンス, 2 模倣の段階としてのパフォーマンス, 3 共有の段階としてのパフォーマンスの3つに分けてさらに考察する次第である。

I-1 ことばの段階としてのパフォーマンス

「さくら」とか「いちご」とことばを言いながらリズム打ちをするレベルのパフォーマンスであるが、子ども同士が好きなようにインスピ

レーションによることばを自分で決めて表現し、お互の表情をとらえるきっかけにもなるのである。このレベルは既にテレビを通して知っていることから始めるとより成果を見るところである。子どもの表現はその身体的発達に順応して上半身の動きを伴うことが多くより自然現象である。教師は無器用さの原因である下半身のはこびに注意してインスピレーション遊びをくりかえすことになるのである。また子どものインスピレーションによるリズム打ちは健康状態に影響していて、強弱感や速度に変化を見るのである。子どもたちはお互の表情を見て楽しみながらリズムにのる楽しさを身につけるのである。以下に示す例からその律動を感じとることはできないが、平成3年5歳児が考え出したリズムを調整して記録したものである。

譜例1 (リズム譜)

平成3年5月2日・9日・16日の調査による。

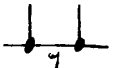


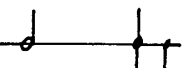
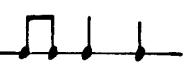

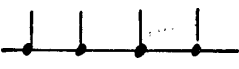
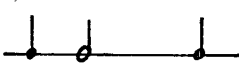
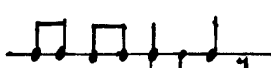


調査対象 男子26人 女子30人

女子は単純リズムを打ち、男子はスピードによって複雑化しようとする例が多く3回ともに同じリズムを打った子どもは2人だけである。その中の女子は「サクランボ」であり、男子は「コイノボリ」「ワカラナイ」の例で示され女子は環境要因が影響していて大好なサクランボのリズムを表現し 男子はコイノボリが大好きでパフォーマンスに対してはさまざまな動作をみせて友だちを笑わせるほど愉快的な性格の反面集中力に乏しく散漫な態度をみせる子どもである。

I-2 模倣の段階によるパフォーマンス

動物や植物の観察をとおして子ども自身が把握できたことをより一層詳しく表現するパフォーマンスである。演奏家の模倣をはじめアニメ登場人物の心の状態を表現するパフォーマンスや、母親になりきって遊ぶ姿もこのパフォーマンスに該当するのである。心の成長の過程として〇〇の感じをとらえるパフォーマンスでもある。音楽表現その演奏内容の強さと弱さ、やさしさやうれしさ等の表情模倣によるパ

譜例 1

a		ネコ サメ モモ ナシ ユリ カワ ガッコウ
b		ミカン メロン イチゴ バナナ リンゴ トマト スイカ サカナ アイス キャベツ ツバキ スミレ サクラ テレビ カタナ スズメ ヤマネ イクエ(名前)
c		チュウリップ ヨウチエン
d		プール ハート ジュウス ラーメン
e		チョコレート バレリーナ タンジョウビ
f		フキナガシ コイノボリ アリジゴク
g		タンポポ エプロン オエカキ ウミネコ カネゴン ヤキトリ タマネギ ブタニク ニクマン
h		ヒコーキ
i		ドラゴンボール サンタクロース ウルトラセブン
j		マントヒヒ オホシサマ イチゴジャム ブドウジャム ストロベリー オカアサン サクランボ ドラエモン ナガレボシ ワカラナイ
k		オハナバタケ ダイヤモンド タヌキマリオ パイナップル
その他		アタックナンバーワンなど

パフォーマンスである。このレベルのパフォーマンスに対する意識は子どもの発想に対する喜びにつながり、なんらかのかたちで認め合うことによってより一層の勇気をもちさらには総合的な知識に反映して次のパフォーマンスに対する自信となって成長する大切な意義をもつのである。1人1人の心理的成長を認める方法はとても難かしく、子どもは健康の状態によっても変化をみせるのであるが、上田礼子の発達ブレスクリーニング用質問によって調査した例は下記のとおりである。

質問 93 質問 88 の絵で体が 6 部分ある絵をかきましたか。

質問 88 「人の絵を書きなさい」といって余白に書かせて下さい。それ以上言わないで下さい。足りないところを教えてはいけません。お子さんがかいた部分を数えるときに（目や耳や腕など）対になっているものは 1 つと数えて下さい。

答 はい 1 いいえ、わからない 2
やらない 3 やる機会がない 4

この質問は5歳6カ月以上を対象にしているが5歳児男子26人、女子30人を対象としている。但し女子の12月人数は転園と欠席により27人となっている。

答 単位%

- | | |
|----------|--------------|
| 1 (イ) 男子 | 53.8% (14人) |
| 女子 | 86.7% (26人) |
| (ロ) 男子 | 92.3% (24人) |
| 女子 | 100.0% (27人) |
| (ハ) 通過人数 | 90% |
| 岩手 | 66.8% 2.6カ月 |
| 2 (イ) 男子 | 46.2% (12人) |
| 女子 | 13.3% (4人) |
| (ロ) 男子 | 7.7% (2人) |
| 女子 | 0% (0人) |

3, 4 当幼稚園において0解答のため記載なしとする。

(イ)(ロ)は当幼稚園児調査 (イ) 7月12日

(ロ) 12月20日調査による。

(ハ)は上田礼子によるデンバー式発達スクリーニング検査による。

以上、女子の答の絵は7月に表情のはっきりしない顔があったものの12月になると明るく笑っている女の子そのほとんどは全身をとらえ、男子の答えの絵は、人のようで人と思えない絵もあるもののほとんどは男の子を表わし、中には父親や内臓のある体などその子の環境による心理的状态を男子においては特に察知することができたのである。2(ロ)の男子は文字を読んで物事の先取りをするが書くことの逆手な2人である。担任の配慮により同じ絵からイメージしたことばの例は次のとおりである。

男子 生きもの。

目があって見える シャベることができる。

人間はシッポがあったけれど自然に消えたもの。

食べたり口をきいたりするもの。

人 日本人。人間は日本人。

骨が丈夫だ。

真黒の服を着てるの お父さんなの 黒やぎの毛糸を買ったから。うごくもの。

地球に居る人。

動物と歩き方が違う。

ライオン？

心。

人。

頭が良くってまるくって体が四角くて鬼より小さくって小さい人形みたい。

2本足であるく人。(2人)

わからない 人間は人間 動物は動物。

うごくもの。

骸骨でできている。骸骨はゆうれいでも人間はゆうれいじゃない。

人間だから自分を大切にするの。

お腹の中から生まれた でもぼくはロボットの医者から生まれたの。

人間は人間でも昔の人間と今に人間は違う。かたちが違う。

宇宙人と食べ物が違う。

ごはんを食べて大きくなる。

骸骨にかわがついているだけ。

こうたろうくん。

女子 生きもの。(5人)

人間は洋服を着る。

ねことかは洋服を着ない。リボンとかつけない、髪がない。ねこは耳がとんがっている。

動物と同じみたいでワンワンとかニャーニャーが無し。

友だちとかと遊んだりする。

人かな。

わからない。(2人)

虫とか蝶とかは服を着ていない。

人は2本の足で歩くけど、動物は4本足で歩く。動物は4本の骨をもらったけど人は2本の骨だけしかもらわない。

おもしろいことをするもの。

なんでもできる人だと思う。

神様からつくられた。(2人)

ねこじゃないし、犬、ライオン、動物でもないでしょう。人。熱も出る。病気になる。

魔法がつかえる人がいるかもしれない。

動物にやさしいものだと思う。
夏になると暑く、冬になると寒いだから人間。
生きているから人間。
動物じゃないやつ。動物の中で頭がいい。
動物はことばがしゃべれない。
自分のお母さんのお手伝をするの。
けんかとかがとくい。

以上より具体的なことば、イメージ豊かな感性表現を見出すことばは子どもの環境要因が優先していることを把握することができるのである。中でもイメージモデルを父親にこだわってスケッチをした男児Aの縮少図1は人間描写一般解答と違い環境要因優先の代表である。7月と12月の絵を比較すると線の描き方の違いと印象表現の違いは明確に表現力の成長をとらえているのである。

子どもの絵に対す知識調査例に村山貞雄による夜と朝の絵を利用し、さらにイメージ表現内容調査として新しく質問を設けそのことばを集

計したところ次のような結果を得ることができたのである。

質問例1 村山貞雄調査による

カード（絵）の中の太陽をさして「これは何とといいますか」

カード（絵）の中の月をさして「これは何とといいますか」

答 昭和58年59年の調査から5歳児6歳児単位%による数字

太陽 5歳 85.7% 6歳 97.1%

月 5歳 87.9% 6歳 94.7%

平成2年3年の調査から5歳6歳児集計単位同上

太陽 100.0% 月 100.0%

質問例2 中村調査による

カード（絵）を比べて見て、「どちらが静かだと思いますか。それはなぜですか。」

答 単位%

夜 平成2年 92.1%

平成3年 100.0%

スケッチ縮少図1



7月12日



12月20日

朝 平成2年 3.2%
 どちらも 平成2年 4.8%

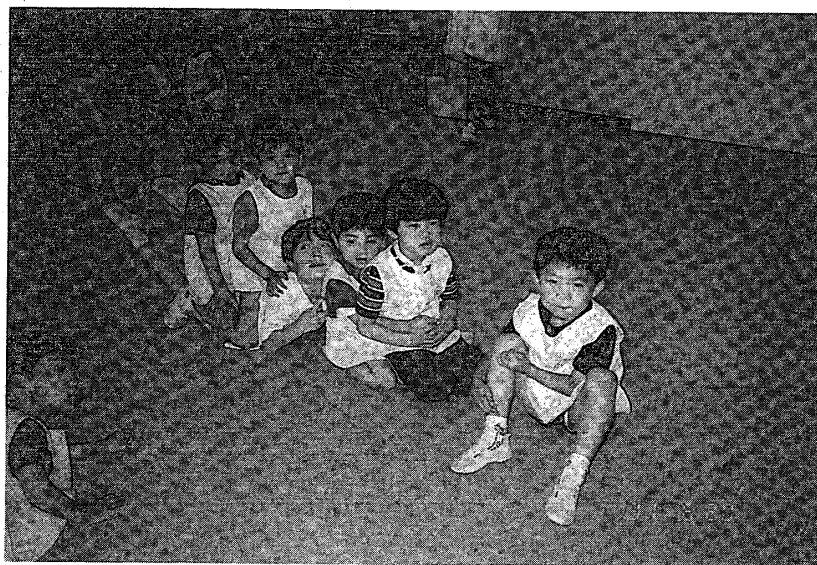
子どものことばによる答え方は平成2年の子どもについては盛岡大学短期大学部1号紀要のとおり環境要因が影響して理解している過程を知ることができる。平成3年の子どもについてはその例は1件のみの「お父さんに叱られるから静かだよ」という1人の答え例で全体の2%である。他の答えは一般解答に通じる次の3例である。それは「夜だから」38% (19人), 「みんな寝ているから」46% (23人), 「くらいから」14% (7人) とする全体の98%の答である。平成2年と3年のことばの違いは, 教師の環境要因に対する思考の変化とパフォーマンスによる子どもの内因性をとらえようとコミュニケーション指導による成果の結果とも思われるが, 継続研究を必要とするところである。

I-3 共有の段階としてのパフォーマンス

共有のパフォーマンスとは2人以上のコミュニケーションによって構成し, その喜びを共有できるパフォーマンスである。平成3年の5歳児は〇〇人組の活動となると, すぐに自分たちのテーマによって構成しようとするほどに相互の主張をより認め合い, その表情もより一層生き生きとしているのである。そのためいろいろ

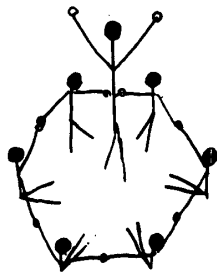
な遊びにもよく内容濃く展開され詳しく表現し味わって楽しんでいる。ブロックの大きな構成の中の小さい部分, 例えば屋上に発着できる建物・動物の部屋・自分の部屋・食堂をつくるなどそのとりくみも3~4人で遊んでいる。ドアと縄を利用して2人の工夫による自動ドアなど遊びのなかに共同工夫を楽しんでいるのである。遊びがパフォーマンスに影響してその表現の題材は広範囲にしてそれぞれに工夫がみられるのである。パフォーマンスのとりくみの方法はより速い音楽のリズムにのって歩きより短い間に, またよりのどかな音楽のリズムにのってゆっくり歩きやや長い間にできるインスピレーションによって友を選びコミュニケーションをとって1つのパフォーマンスを決めるのである。男女共有目的のため男子だけ, 女子だけあるいは男女共同のグループが生まれるのである。その構成に同じグループはなく誰とでもパフォーマンスを共有できるようになっていてコミュニケーションする内容もお互が許し合えるほど精神的成長を感じとれるのである。以下に示すパフォーマンスの例は, 6人あいは6人以上によるコミュニケーションによって構成された平成3年6月7日, 14日, 20日実践記録である。

男子 手裏剣 ジェットコースター 十字架
 街の車 ラーメン 毛虫 宇宙船 ク

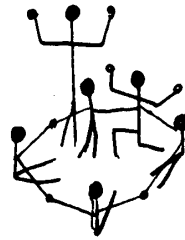


写真例 平成3年6月20日ジェットコースター

縮少図2（スケッチ）



すみれ



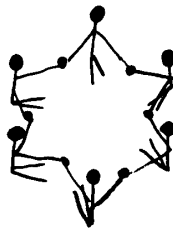
ばら



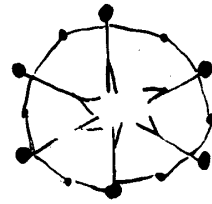
ゆり



さくら



コスモス



ちゅうりっぷ

エーター

女子 ゆりの花 桜の花 すみれの花 ちゅうりっぷの花 動物たち 冠 星
混合 動物園の動物たち コスモスの花 新幹線

男・女の差は性別の他に遊び内容にもよってその違いを生じているが、男子も花をつくり女子もクエーターをつくるなど、必ずしも性別優先することはできないのである。パフォーマンスの記録はカメラやビデオに記録するもののより瞬間的なこと、また子どもとりくみゆえに教師側の意図するポーズをとらせることは困難なことである。子どもたちは2~3人のグループによるパフォーマンスは「こぼれたラーメン」「ウルトラをやったところ」とその過程の表現をみせるが人数の多い場合は〇〇をつくるというパフォーマンスをとりそれぞれの表情は個人にまかせるという参加して楽しむパフォーマンスになってしまうのである。

写真例は男子によるジェットコースターパフォーマンスである。

前述男子Aがジェットコースターになって客を乗せて居り、手前の男子は操縦者である。但

し操縦者になった子がカメラを意識してポーズをやめてしまったシャッターチャンスの失敗写真である。女子による花のパフォーマンス例は担任によって記述されていて縮少図2示すとおりである。

共有パフォーマンスのもう1つの例に「森のくまさん」によるかえ歌遊びがある。みんなで（6人以上のグループ）かえ歌の文「〇〇が〇〇で（と）〇〇と（で）〇〇した」にそって作り、その内容を1枚の画用紙にスケッチするのである。1つの文から子どもたちはイメージを拡大し、楽しい会話をしながらスケッチするのである。かえ歌の例は字あまりで音楽とのバランスに苦労するところであるが、子どもたちは自分で作ることを楽しみまた身近なことを文にして文字のもつ意味を理解するようになったのである。平成3年7月に実践された文字配列とそのスケッチ例は下記のとおりでである。

文例 がんだいでみんなでさんぽした。

……………縮少図3

あるひ みんなととぞんをした。

こびとがケロッピーとこうえんでばしゃにのった。

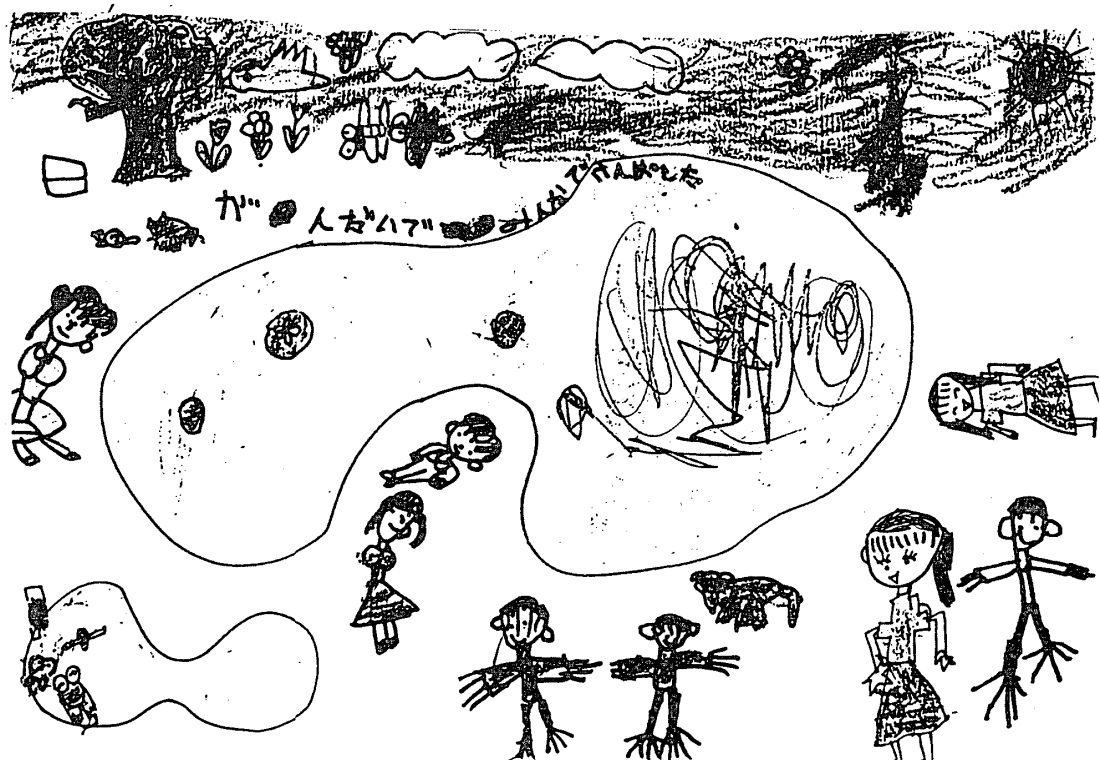
とおるくんがこうえんであなをあけた。
 なおちゃんがまりちゃんとえんそくに
 いったはしった。
 なつきちゃんがあゆみちゃんとバレ
 リーナのところであった。
 ちかことゆうきがたつみのおうちへ
 いった。
 あるひ けいせいくんとなつきくんと
 こうたろうくんのいえでファミコンし
 てあそんだ。
 あやかちゃがおやまできつねとあそん
 だ。
 てるくんとしんいちくんといっしょに
 きにのぼった。
 わたしたちはおりがみでおはなをつ
 かった。
 ゆうじがこうえんできのぼりをした。
 ちほちゃんがこうえんでえんちょうせ
 んせいとであった。
 あるひみんなでバッタをつかった。

あるひしんちゃんはひろきにあそびに
 きた。
 あるひみんなでキャンプにいった。
 あるひあゆみちゃんがくみこせんせい
 とデパートであった。
 しまけいちゃんがローラースケートで
 ようこのうちへきました。
 あるひみんなでホールでえをかきまし
 た。
 かしわだせんせいがはなにみずをくれ
 た。

このパフォーマンスは文字に対する興味とし
 て、子ども全体の活動に反映して活字の多い本
 に興味をもつようになり、また文字をとおして
 自分の気持ちを相手に伝える遊びが展開すること
 になったのである。この機会に教頭は郵便ごっ
 こを配慮し、母の会には母から子どもへの手紙
 が郵送されたのである。

このようにしてことば・模倣・友だちと共有
 するパフォーマンスはお互いが常に関係して豊
 かなインスピレーションを生み子どものより総

縮少図3



平成3年7月4日

譜例 2



合的な活動のエネルギーの要素として1人1人に育くまれるのである。

II. パフォーマンス教育と音楽基礎能力について

子どもはパフォーマンスをとおして他人とのかゝわりを覚え遊びの内容・特にお互いの表現が豊かになると確かに音楽的能力も成長しているのである。生活学園短期大学紀要12号・盛岡大学短期大学紀要1号に示すとおり当幼稚園児の能力は村上貞雄の調査によるとそのほとんどが90%~100%と高い正解率を示しているのである。次に1項のリズムの他に調査できた音楽能力調査は下記のとおりである。前述1号紀要提示と同じ音列による音感と演奏能力調査である。今回楽器の違う音質で調査し結果は次のとおりである。

譜例 2

答え 単位 %

1	(=)	男子	95.8% (23人)
		女子	94.4% (38人)
	(≠)	男子	60.0% (15人)
m		女子	80.0% (24人)
	(≠)	男子	78.3% (18人)
		女子	100.0% (27人)
n	(=)	男子	66.7% (16人)
		女子	16.7% (26人)
	(≠)	男子	47.8% (11人)
		女子	70.3% (19人)
n	(=)	男子	25.0% (16人)
		女子	51.3% (20人)

女子 51.3% (20人)

(≠) 男子 13.0% (3人)

女子 51.9% (14人)

(=) 平成2年12月調査

男子24人 女子39人を対象としている

(≠) 平成3年7月17日調査

男子25人 女子30人を対象としている

(≠) 平成3年12月9日調査

男子23人 女子27人を対象としている

譜例 n(≠)による男子と女子の保育年数・音楽教室・感性的関わりのある家庭環境・全員合奏参加による担当した楽器例をあげると次のとおりである。

女子B 3年保育 音楽教室有

なし アコーディオン

女子C 3年保育 音楽教室有

なし 電子オルガン

女子D 3年保育 音楽教室有

なし アコーディオン

女子E 2年保育 音楽教室無

姉 アコーディオン

女子F 3年保育 音楽教室有

姉と母 電子オルガン

女子G 2年保育 音楽教室有

Fと友 電子オルガン

女子H 2年保育 音楽教室無

姉 鍵盤ハーモニカ

- 女子I 3年保育 音楽教室有
なし 鍵盤ハーモニカ Sp
- 女子J 3年保育 音楽教室有
なし 鍵盤ハーモニカ
- 女子K 3年保育 音楽教室有
なし 鍵盤ハーモニカ Sp
- 女子L 2年保育 音楽教室無
(絵) 母・姉 ティンパニー
- 男子M 3年保育 音楽教室無
母 鍵盤ハーモニカ
- 男子N 3年保育 音楽教室有
姉 鍵盤ハーモニカ
- 男子O 3年保育 音楽教室有
母 アコーディオン・タムタム

上記の例から確かに音楽の能力早期表現力はコミュニケーションによる環境・家庭や幼稚園に影響していることを把握することができる。楽器例は譜例3と柏田編曲による「ラピュタ」を演奏したときの自主的選択による担当内容である。なかでも女兒Lは色感豊かな母とのコミュニケーションがあり音色に興味をもって担任のピアノ演奏に感動してマスターできた子である。男子Mは3歳のときから音の出るスピーカーに興味を持っていて当時装飾していて風にゆれる

星を見て「お星さまがうたっている」と表現していた子どもである。生活の中で育かれた感性が音楽の能力を高めることになったのである。さらに子どもたちは音楽をどう選考してパフォーマンスを考えるか次の実践例がある。

実践例

次の2曲から曲を選び考えたことをみんなの前で表現しましょう。

曲例 譜例3.

O チャップステップ ヒルスター採譜

P 雪んこの踊り クラシェフ M.K.

選曲理由

子どものリズム嗜好によると8分音符に集中していることから2曲を選び、Oは全体が8分音符によるパフォーマンスをPは付点4分音符と8分音符のパフォーマンスを感じさせまたPはOよりやさしさや優雅さを受け入れるなど選曲対比が可能である。

表現内容

グループによる選曲は全員がOである。6人グループ以上による音楽を聴いて考えたことを音楽にのってパフォーマンスするのである。男子の答は流動的ポーズのある積木くずし、ロケット・ジェットコースター・おんぶバッタであり、女子は花

譜例3

The musical score for Example 3 is presented in two systems. The first system, labeled 'O', is for the piece 'Chap Step' and is written in 8/8 time. It consists of two staves: the upper staff has a treble clef and the lower staff has a bass clef. The second system, labeled 'P', is for the piece 'Snowy Dance' and is written in 6/8 time. It also consists of two staves: the upper staff has a treble clef and the lower staff has a bass clef. The score includes various musical notations such as eighth notes, rests, and a percentage sign in the lower staff of the second system.

譜例4 アイネ・クライネ・ナハトムジークより“ロマンス” モーツァルト作曲中村ウメ編曲

- ① 鍵盤ハーモニカ ② アコーディオン ③ 電子オルガンⅠ ④ 電子オルガンⅡ
⑤ 電子オルガンⅢ

Andante

The musical score is written for five instruments: ① Keyboard Harmonica, ② Accordion, ③ Electronic Organ I, ④ Electronic Organ II, and ⑤ Electronic Organ III. The tempo is Andante. The score is in 3/4 time and G major. It consists of two systems of staves. The first system shows the initial melody in the keyboard harmonica and the accompaniment in the electronic organs. The second system shows a more complex texture with all instruments playing. Dynamics include piano (p) and forte (f).

や流れ星あるいは星と題し円中心にむかいあって手や足の動きをかえる移動性のないパフォーマンスである。もっとも人気のあった「積木くずし」の内容は次のとおりである。それは音楽の3フレーズの変化にも合っていて最初の重ねあった

積木のポーズから、積木がくずれ落ちて最後に積木の1人1人がそれぞれの踊りをするという3場面を見せてくれたのである。またパフォーマンスに関係せず個人的嗜好としてPを選択した子どもは6人である。

以上「積み木くずし」をパフォーマンスできた子どもの音楽能力は上記14人には含まれずPの曲を選んだ6人中5人までが14人中の子どもであったことは前者は遊びの延長の偶然の一致を見た例として興味深いところである。上記の体験は全く初回の例であったが、回数を重ねることによってパフォーマンスと音楽の流れを一致させることができると思われるのである。なぜなら上記の男子Oは音楽の流れを意識して考え込んでしまうなど音楽にどう合わせるかとい

うことでパフォーマンスできなかったのである。こうして当幼稚園の子どもたちは女子にあっては音楽能力に示すとおりより直感性に優れ理解し、パフォーマンスにも無難な動きを見せ、男子は音楽の受け入れ方に時間を要し、パフォーマンスにも行動を分析してとらえさらに構成するというここに至ってそれぞれの個性を見るのである。この内容チェックは音楽個人指導方法にも反映しているのである。このようにして幼児における音楽基礎能力は実は音楽を聴いて参



加し、お互のパフォーマを受けてそれぞれの能力をさらにパフォーマする感性を育くむところに成長しているのである。平成3年5歳児音楽基礎能力の集大成は譜例3の演奏に実証するところである。子どもたちは楽器の違いと同質音に気がつき、また曲想表現の工夫にいろいろなアイディアを持ちよっているのである。鍵盤ハーモニカの呼吸操作とアコーディオンの送風テクニックの工夫はより一層演奏内容を高めているのである。その反面電子オルガンの音色の

不釣合と操作に疑問をいだき編曲の方法に新しい課題をのこしているのである。こうした演奏に通じ合う個々のパフォーマンスの成長はパフォーマンスが原動力となって音楽の基礎能力を成長させるというパフォーマンス教育を実証しているのである。

III. パフォーマンスの発展

今や幼稚園の音楽活動内容は幼稚園指導要領改定以来より一層の総合的内容をもって表現と

いう立場から考えられ、その論理は子どもの自主性や自発性の姿を求めてさまざまに展開されているのである。音楽教育の立場から音楽をとらえる共通の視点は発達の学習内容であり、音楽の内面性を把握させて表現するような音楽それ自体を把握できる力を発達させることである。アメリカのマーセル (James Mursell) が論じているとおり音楽をもって相手に伝え、音やリズムに反応する能力と潜在するイメージをさらに新しいイメージとしてとらえられるよう助けながら音楽を再現することに音楽的成長のための教育が実在するのである。しかも音楽経験はそれぞれの能力を持ちよって一緒に楽しめる人間的経験によることが大切になるのである。「遊びの上手なところに子どもは育つ」とは幼児教育の一般論であるが、探求心旺盛な子どもの遊びをふりかえると遊びのより愉快で新鮮さを感じさせるところには豊かなインスピレーションやクリエイティブが働き、遊びがより継続するところは豊かなコミュニケーションとその成長を感じるのである。それはパフォーマンス教育に通じるパフォーマンスの要素の豊かな展開である。実際にパフォーマンスの要素がどのように働いてI項の各レベルのパフォーマンスに反映するかを考えると次のとおりである。

III-1 インスピレーション

- I-1 インスピレーションが1つのことばによる表現にダイレクトにつながる。
- I-2 インスピレーションがボディーパフォーマンスの連形をとめない表現される。
- I-3 インスピレーションがボディーパフォーマンスをとおり友だちとのコミュニケーションによってまとめられ表現される。

III-2 クリエイティブ

- I-1 ことばによってリズム、強弱等自由に生みだしていく。
- I-2 1つの対象を見出し自分なりの新しい動きを模倣を根底に生みだしていく。

- I-3 それぞれ自由な発想 (仮空のものも含む) を伴い友だちとのコミュニケーションをとおしてさらに整頓されたパフォーマンスと発展していく。

III-3 コミュニケーション

- I-1 ことばによって表現されたことを見たり聞いたりするコミュニケーション。
- I-2 模倣によって表現したその表情を見たり感じたりアドバイスをするコミュニケーション。
- I-3 お互潜在するアイディアを交換するコミュニケーションと創造されたことを見たり感じたりするコミュニケーション。

以上パフォーマンスの要素ともいえる III-1・III-2・III-3 が相互にかかわりあうその状態は丁度イメージを媒体とする回路をスパイラルに作動して I-1・I-2・I-3 を発展させるのである。図式化すると次のとおりであるが、子どものパフォーマンスはより瞬間的でその共同体に於てもより未熟なことから、同振幅をもったくりかえしと考えるのである。そしてまた1人1人の個性はその振動数によってつくられるのである。

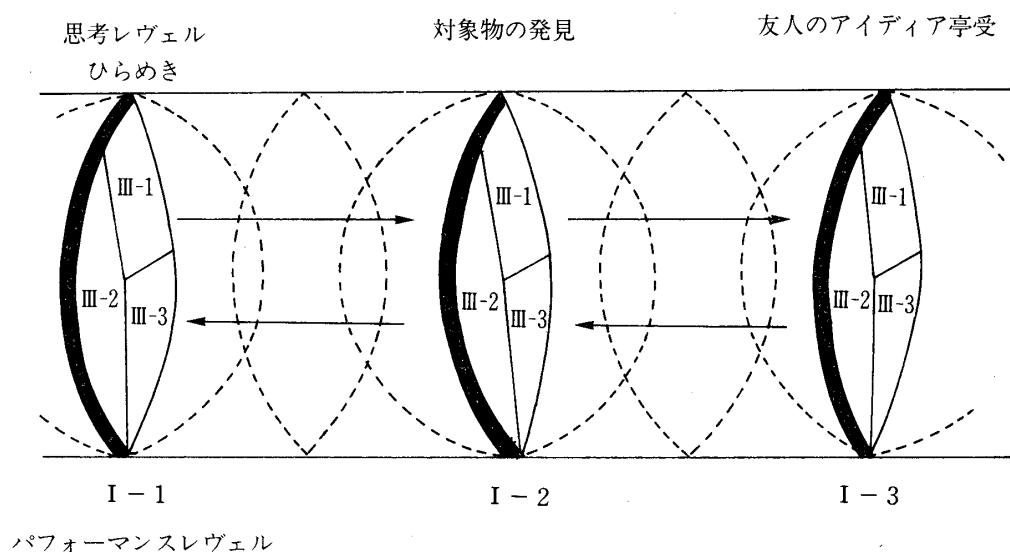
上記図表による I-1 と I-2, I-2 と I-3 の経路右方向はイメージの予想を左方向はイメージの再生を示すが、子どものレベル発展は図表に示すように流動すると考えられるのである。

ま と め

パフォーマンスは子どもの内因性に着眼して表現することにその要素を見出し、教師は自分の内因性をとおして子どもと交流しコミュニケーションを大切にするとところに教育の方向性を見出すことによって人間形成を尊重する幼稚園の教育に生かされるのである。次のことばは担任のとらえた当幼稚園の子ども男子 A と女子 L の表情である。

男子 A ブロックや積木で遊ぶことが多く自分がイメージしたものを1つ1つ具体化するように構成し遊んでいる。自分の

パフォーマンスの発展図



気がついたこと思ったことは素直に表現し絵や壁面の装飾について「もう少しこうした方がいい」「○○もあった方がいい」と言って描いたり作ったりしている。

女子L ○○ちゃんと椅子や机を出してごっこ遊びを楽しんでいたが「ラピュタ」のうたをきっかけにピアノ奏に夢中になり、その刺激を受けた子どもたちはLを中心に集まりピアノを教えてもらおうとしていた。Lは教師のピアノの指をじっとみつめていて自由遊びに音をさがして弾いてしまうように1つの遊びをじっくりと継続させる。

上記のとおり子どもの遊び内容の発展に、そのイメージの拡大と実現しようとする個人のパフォーマンスのエネルギーの強さを見出すとともに子どもの感性と知能における成長をとらえることができるのである。また聖劇指導に携わる教頭は特に5歳児の学習の仕方について、登場する人物のイメージを教えただけで子どもたちはお互いの役をマスターして演じることをとらえていることを実感しているのである。ここにも子どもの感性の成長をみい出すのである。

一方平成3年転入園した5歳児の男の子は、

明るく活発でその運動能力には誰もが一目をおき認めるところであるが、音楽の感性を受け入れることが不得意で、リズムの表情に乏しく、音楽を体に受けとめることができなかったことをとらえているのである。

以上のことからパフォーマンスは人間形成に関わるその感性を第一に育くんでいることを確認する次第である。さらに共有するパフォーマンスは楽しみながら実践するところにコミュニケーションの学習が育くまれることを実証しているとおおり、これからの教育実践により一層効果的に展開でき得ると期待するところである。

盛岡大学附属愛育幼稚園の全教員が携わり子どもをとらえる中で今回は5歳児担任柏田祐子、岩渕美重の協力と教頭鎌田多恵子の配慮に感謝するところである。尚この研究の一部は平成3年度日本音楽教育学会 東北地区例会口頭発表の内容である。

参考文献

- ジェームス・L・マーセル著 美田節子訳 『音楽的成長のための音楽』 音楽之友社
- ロザムンド・シュター著 貫行子訳 『音楽才能の心理学』 音楽之友社
- がくふの会編 『音の織りなすパフォーマンスの

盛岡大学短期大学部 第2巻

世界』音楽之友社, 昭和堂
ジョン・ベチンターとピーター・アストン共著 山
本文茂 坪能由紀子 橋都みどり共訳
『音楽の語るもの』音楽之友社
シッシェル・ドウニ著 赤内 礼監 『イメージの
真理学』勁草書房

大畑祥子 小川博久 大場牧夫共著 『創造的音
楽学習の試み』音楽之友社
『教科教育学の成立条件』東洋館出版
日本音楽教育学会編 『音楽教育学の展望 III』音
楽之友社
盛岡大学短期大学部 紀要 第1巻